

87号 植樹祭—6

天皇陛下・皇后陛下のお手植え

開場は、昨年の茨城会場に比べると山の傾斜地に作られておりややこじんまりとした感じであるがそれだけに、県民の歌にある木の国・山の国にふさわしく、会場作りに工夫が見られた。古田岐阜県知事「ありがとう、未来へつなげ、森の恵み」をテーマにして、天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、第57回全国植樹祭を開催する。岐阜県は県民の歌にあるとおり、「岐阜は、木の国・山の国」県民全体の大切な財産であり同時に、森林つくりの仕組みをつくり、幾世代にも伝えねばならぬ、植樹祭では、次の世代を担う子供を主役に生きた森林づくりの大切さをアピールする。と挨拶した。天皇・皇后両陛下は定刻にご到着、「緑を未来に引き継ぐことは大切なこと」と挨拶され、いくつかの種類の苗木をお手植えされたそのなかに、恐れ多くも私が手植えした「むらさきしきぶ」も含まれていた。恐縮至極である。お手植えの次は、お手撒きをされたなかで、岐阜県産で、500年生の「うすずみ桜」がある。聞くところによれば、厳選した種子を、現代バイオ技術の粋を集めて、確り管理すれば例え500年生といえども、きちんとした木に成長することである。現代のバイオ技術の素晴らしさを垣間見た思いであった。



88号 植樹祭—7

飛騨乃国 高山～古川

植樹祭の下呂をあとにして、飛騨川に沿って北上する41号線を約一時間30分遡上する。飛騨は山に囲まれた国、日本書紀にある二面怪人、奈良、平安時代にはとの造営に活躍し「飛騨の匠」の名前を得た。飛騨の基礎は、戦国武将金森長近が、高山と古川に小京都とよばれる雅やかな街をつくった。そのご明治維新までの177年間は幕府直轄の「天領」であった。飛騨には木材や鉱物資源など豊富であり、富の蓄積から、町人文化とともに絢爛な高山祭り、古川祭りが生まれた。厳しい風土の飛騨では、長い冬から明るい春、収穫実りの秋には格別な想いがあり、気概を祭りにかけ、豪華壮大な祭りが生まれた。

最初に訪れた古川は、静かな白い壁の土蔵造り町並みが、小規模な清流の瀬戸川を挟んで続く静かな町だ。春に行われる古川祭りは、「起こし太鼓」がある。大屋台の高いやぐらのうえに大太鼓を据えて背中合わせで二人の男が、大太鼓を交互に乱打し町じゅうを練り歩く勇壮な「動」の祭りだ。高山祭りは収穫の春12台、秋11台の豪華絢爛屋台（国重要無形民俗・文化財）。獅子舞、神楽、神輿、闘鷄樂、雅樂、袴姿の警護で巡回するまさに飛騨の文化の粋が凝縮している。この形式の始まりは江戸時代である。以上は、祭りを見物したのではないが、資料館などを見聞し、説明や資料などから紹介した。

素晴らしい飛騨の歴史と文化、次の機会には、ぜひとも、実際の祭りを見物したい強い思いを心に残し、感動を覚えつつ高山を離れた。

89号アーバンドック・ららぽーと豊洲

10月5日オープンの2日前、話題のアーバンドック・ララポート豊洲を視察した。報道陣関係者のみの内覧会である。それでも大勢が押し寄せており、注目されているエリアだ。三井不動産の説明によれば、地主の石川島播磨重工業と三井不動産が20年定期借地権契約で開発した事業だ。総工費は・・・。晴海通りの南側に面した6万6千m²の造船工場跡地が、そっくりそのまま、アーバンドック・ららぽーと豊洲である。

建物は船を模し、南北即ち、縦に切り取った中身の雰囲気で作られている。さらに造船所のバース、グレーン、ミニ勝鬨橋の跳ね橋を配し、造船所の雰囲気を残している。そして自由に入り出する銀色のスピードボート、さらに南の沖合いには東は豊洲モノレール駅から南にモノレールが伸び、西は勝鬨橋、月島の倉庫街を配し、357号の橋が南正面に、晴海通りの延伸が合流するロケーションは実に素晴らしい、天気のよい日の夕焼けは絶景ではないか。このようなロケーションを背負って、アーバンドック・ららぽーと豊洲の本体は南側から船を形どっている。黒、銀、茶黄土の四色に分かれた、舟形の建物の後ろにそれぞれ地上6階地下1階の建物がショッピングセンターとして周囲を睥睨しているさまは、正に大きな客船といった雰囲気であり、まさに船そのものであり、四層の船をモチーフにした建築空間である。

ショッピングセンターは190店入居していると聞いた。このなかで特に目を引いたのが、1階波打ち際の、オーシャンジ・バークーというオールドハワイを再現したハンバーガー店だ。店は向かって南側の波うちぎわに位置している。店の周囲は、床のコンクリートが、大きく波打つ海洋だ。店の周囲は波うちぎわのイメージで窓の下まで、黒い岩で固められ、オールドハワイの雰囲気をかもし出している。店内はもちろん木の床、木のテーブルでコーヒーカップは、ハワイ流のおおきなカップ、ハンバーガーも全て大型いかにもオールドハワイの演出だ。こんなお店のほかにもユニークなお店が多いのが特徴だ。ごく一部のご紹介で恐縮ですが、ご关心ご興味あるかたはぜひともご一覧をお勧めする次第です。

90号

なんきんたますだれ

つい先だってのこと、両国名物ちゃんこ鍋の店に行った。この店は割烹吉葉という老舗だ。元横綱吉葉山が活躍したころは吉葉御殿といわれ、旧宮城野部屋である。横綱吉葉山（先代宮城の親方）はさっぱりした性格で、大物後援者（谷待ち）がおおくこの部屋は豪華な総ヒノキ造りとなっている。正面、向こう正面左右4本の大黒柱は、1尺2寸角、木はもちろんヒノキの一本ものが土俵を支えている。現在はちゃんと料理の吉葉として賑わいを見せている。この部屋で、知り合いの女性から私のなんきんたますだれをぜひ見て、と招待を受けた。渋い相撲甚句もありとのことで出かけた次第である。なかなか美味しいちゃんこ料理を魚に、ビールでのどを潤しているうちに、なんきんたますだれが始まった。短く、しかも手際よく小さく折りたたまれた 玉すだれを演者がこれも羽織袴に鳥帽子姿で登場し、音楽に合わせて、踊りながら、この玉すだれを自由自在に操って、掛け声とともに、大きく広げたり、輪を作ったり、孔雀が羽を広げたような見事な大玉が披露された。この芸は、単純なたますだれを広げたり、締めたり、伸ばしたり短くしたりするだけのものだが、優雅な音色の音楽、と演者の巧みな芸に見とれ、思わず引き込まれた次第だ。この演者は時々テレビに出たりするがまったくの素人、新木場木材加工会社の社長である。お目出度のときなどお願ひすれば喜んで来てくださるはず、ご希望の方はお申し込みください・・・・。

91号

6年10月23日

ヨーロピアンウッド

ペーター・ヘルクヴィスト氏の講演

先日東大の一条ホールでの、ヨーロピアンウッドのセミナーに参加したので紹介し関係者のご参考に供する。スエーデンでは、子供のときから、木が題材のデザイン教育に力を入れている。道具は刃物だ。木を素材にして刃物がついた道具で、空想、夢などを形に表すことを学び自由な工作物がうまれる。スエーデン語で *Sloyd* とは手工芸という意味で、工作養成学校として、建てられた農民の子供たちの学校だ。実習授業で経験から学ぶことを教えられ、刃物を使い、危険に対しても責任を持つことも学ぶ。立体も自分で作るが、立体という3次元の世界を子供たちがどんな表現するか、試行錯誤のなかで学び、素材の木の選び方、工作してみると、硬い木は刃物が効かぬことを知る、やわらかい木でなくては、3次元の立体が出来ないことなどを学ぶ。木靴などは、正にそのものばりだ。

また、日常生活のなかで学ぶことは、斧を使って薪を作る過程で、斧は危ないものだ。次に薪を作るには、年輪に直角に斧を入れなければきれいに割ることが出来ない、なぜだろうを学ぶ。

ヨーロッピアンウッドー2

ペーター・ヘルクブリスト氏の話が続く。子供たちは、この学校から出る木材の切り落としなどを燃料として、ストーブにくべ、電気ヒーターと違った暖かさを知る。森林公园では、木の発散する精気が健康的だ。木の上に子供たちが、自分で工夫した木のかくれ場所などが作れる。森の秋の紅葉は魔法の世界、夢の世界を知る。木の断片はアイデアの宝庫、組み合わせてなにかを作るとき、釘で接合するときの道具は、金づちで作る、時々痛い目にあうが、こんな便利な道具はほかにないと気づく、やがて自分が大人になったら、自分の夢の住まいを建てようと思う。

現代の家は、歴史の模倣と、機能的な家が求められる。木材関係者は、材料の供給者として、デザインと、技術の循環を可能にする仕組みを作り出す責任がある。木はデザイン自由自在、しかし経験をつまねば、使いこなすことは出来ぬ。子供時代から、木に親しむことは、即材料の使い勝手、道具の使い方、大切さ、技術の伝承、想像力の養成、デザインの勉強などから、歴史と経験に基づいた住まいを現代の要請にあった住宅を供給せねばならない。楽しい可能性を秘めた木のパズルから見つけだ、木材関係者の責務はおおきい。木材関係者の話として興味深い、日本でも子供の頃からこのような経験をつませることが必要だ。

93号

ヨーロッピアンウッドー3

三番目の講師は、千葉大学工学部デザイン工学科教授 製品・環境デザイナー 清水 忠男先生だ。

海外の留学経験、環境がテーマ主なテーマのなかで、地域活性化の野ため街づくり、少子高齢者社会を見通した高齢者の施設、高齢者向けの家具、高齢者と老人の共生など多方面にわたり活躍中、デザインの基本は人間の行動観察・行動心理学だ。

高齢者の施設では、積み上げて片付けられる木のいす おむすびがたテーブルは視線がずれて、緊張感なくリラックスできる。人間工学に基づき試行錯誤を繰り返しているが、今のところは、高齢の施設に好評だ。現状の高齢者施設ユニット形式で、ストレスが溜まる、日常的に触れ合うことが必要で、リビングダイニングの周りに畳・木材を主体にした個室を配置している。



94号

ヨーロピアンウッドー4

清水先生の親子椅子は素晴らしい発想だ。

親子のふれあいでは新しい発想で親子椅子の考案好評を得ている。

子供は椅子に座ると落ち着かないのは、足が地に着かず、空中でブラブラしてうつ血し、苦しくなるので落ち着かない、子供と親の座面の高さを変え、目線を合わせて、親が子供に本を読んで聞かせる仕掛けをした。

子供は足が安定し落ち着いて親子の対話や、親子読書などが出来る。この親子椅子は木材で作った。やはり素材は木がよい、木の空間や木の家具 安くないが長く使えるので結局は安いことになる。 素材を生かし 木を使った家具・インテリアスペースは使い手から求められている。

固定観念を捨てれば、新しい発想が生まれるが、コストパフォーマンスをいかに突破するかだ。親子椅子の発想は素晴らしい私の自宅で孫との対話に使いたい。先生には機会を作り、お話を伺いたい。



95号

新年ご挨拶

皆様明けましておめでとう御座います。安倍晋三首相は、少々頼りないが、周囲で支え、日本の針路の舵取りを願っている次第です。昨年来の景気回復はあくまでも大企業本位の回復であり、中小企業には遠いところが現状。4月地方選挙、7月参議院選挙、商売をおつぱり出しての選挙運動、経済の停滞が心配。政権与党は不人気施策なしが通例だが、エネルギー高止まり、第一次產品の値上がりなどにより見通し不透明、我々木材産業は環境問題に取り組みながら、いかにあるべきかを将来を見据えて、各業界、各企業リーダーが、経営にまい進せねばならぬ、ご指導賜りますよう御願い申し上げます。

初日の出の写真 添付

96号 オートサロン

私の大先輩が暮れの28日今日で御用納めのため大掃除の真っ最中にお見えになり新春1月12日から幕張メッセオートサロンに出展するからぜひ見に来い、なぜかといえば、ミニバンタイプの高級車を改造して、内装は全て木材で固めたものだ。動く応接間、事務も出来るデラックス版だ。どうしても来い、強い要請を受けて幕張までのこの出かけていた。新木場から急行で20数分の車中で木だらけの自動車のイメージがわからず、シブシブが本心、しかもオートサロンといわれても、なにやら意味がつかめず、事前情報なしのヅッケ本番で、正直あまり期待をしなかった。ところが幕張に下りてびっくりしたのは、大勢の参加者、ダフ家が出るほど混雑振り、入ってまた人の多さに当たられて人に酔ってしまう有様、問題の車両の周囲には大勢の人ばかりの中心に出品者の大先輩が、訪れる人相手に説明に熱弁をふるっている。ウン転籍との間仕切壁にはバーザーイのテレビ、冷蔵庫、中央部は、バーザイメープルのテーブルが鎮座ましまし、パソコンがひかえている。天井はバーザイ、床はボリビアローズで凝りに凝っている。木の使い方を考えればまだまだあるのではと我々材木屋は眼の付け所が、ずれているのでは感じた次第だ。ご興味のある方は、下記にお問い合わせください。安広木材株式会社・・・・・